

## その人らしい最後とは・・・ ご家族とスタッフとともに

特別養護老人ホーム 芦別慈恵園  
施設福祉課 介護係  
ユニットリーダー 小松登美子

### 社会福祉法人 芦別慈恵園

- 特別養護老人ホーム・・・106名
- ショートステイ(併設型)・・・6名
- デイサービスセンター・・・24名
- ケアプラン相談センター・・・2名体制
- 訪問介護サービス・・・平成18年3月から
- 単独型デイサービスもみじの家・・・10名

⇒平成18年10月より

**小規模多機能型居宅介護へ変更**

### 特別養護老人ホーム 芦別慈恵園

- 平成14年10月から  
ユニット(14名)ケア導入
- 平成15年 8月から  
小規模生活単位Ⅰ型(11名)実施  
(空知管内既存施設で始めて)
- 平成17年 4月から  
8ユニットに編成
- 平成18年 4月から  
10ユニットに再編成し各ユニットリーダー配置

### ターミナルケアの始まり・・・

- 慣れ親しんだ場所から病院へ
- 「病院で最後を迎える」ことを全員が望んでいるのか？
- 慈恵園で出来る最大限のことを活かしておこなっていただろうか？

**ターミナルケアの挑戦**

### ターミナルケア(平成16年4月より実施)

- 指針の作成(本人・家族の意向)
  - ムンテラの実施  
(本人・家族・医師・看護師・生活相談員等)
  - 居室で実施
  - 情報の共有化を図る
  - その都度環境を検討する
  - 実施当初⇒様態変化時は白ゆり(静養室へ)

### 利用者から学んだこと

- 慈恵園の中ではあるが、慣れ親しんだスタッフがフロアではなかった・・・。
- 落ち着かない、不安である。
- スタッフは日に何度もフロアを離れて白ゆりへ行くことになっていた。

**部屋に帰りたい！**

### 利用者から学んだこと

- 住み慣れた部屋
- 馴染みのスタッフの関わり



**その人らしい生活を崩さず、  
また慣れ親しんだ環境で最後を  
迎えることの大切さ**

### 夫婦でのターミナルケアの取り組み

- S・S様(男性)・・・大正5年3月25日生(89)

平成16年7月9日入居(介護度2)

- ・妻・・・平成13年12月24日に入居
- ・独居、デイサービスを利用時妻の面会

**\*「妻は宝物」**

- ・入居当初⇒夫婦別の居室で生活
- ・平成16年8月16日・・・夫婦同室に



### S・S様(男性)・・・大正5年3月25日生(89)

・平成17年

6月28日・・・居室変更・環境整備

9月・・・熱発が多くなる

9月12日・・・入院

26日・・・肺癌と診断

10月13日・・・退院⇒ターミナルケアへ

### 夫婦でのターミナルケアの取り組み

#### 【環境】

- ご家族と一緒に過ごせる空間
- 妻と一緒に空間
- なるべく医療器具が目立たない様に
- 体調や状況により変化
- ご家族と情報を共有化

#### 【栄養】

- アルブミン値確認  
⇒プロテイン、濃厚流動食等の提供
- 8月・・・45.2kg・Alb3.3
- 10月・・・42.2kg・Alb3.2
- 11月・・・43.2kg・Alb3.2
- 12月・・・44.8kg・Alb3.2
- 1月・・・42kg・Alb2.9



妻の思い…

- 12月中旬から…

**「うちの父ちゃんをいじめないで!!」**

見えない環境整備…不安にならない様に

⇒ **果たして見えないことが**

**本当に良いことか?**

- **夫婦で生活している意味をもう一度考える**

ケアワーカーとして…

- 居室で看取るといこと⇒不安
- 夫婦一緒の時間は?
- 本人の思い…『家に帰りたい』
- そばに居る妻の思い…
- 日々面会に来られる家族の思い…

今後として

- 個別ケア

- その人を良く知る
- 理解すること
- 興味を持つこと
- 実行すること



**人としての成長**